

さつまいも伝来400年 記念シンボルキャラクター決定!

さつまいも伝来400年を記念して募集したシンボルキャラクター。112点の応募があり、厳正なる審査の結果、丹羽法子さん(47歳・南大塚)の「紅ちゃん」に決定しました。

採用作品については、さつまいも伝来400年記念事業等で使用する予定です。

なお、今回は優秀な作品が多かったため、審査員特別賞を設け、柴谷智美さん(19歳・東田町)の「きんときちゃん」が選ばれました。

また、小江戸川越春まつりのオープニングで実施した「まちかど審査」の結果、まちかど審査員賞は、伊藤順さん(22歳・霞ヶ関東3丁目)の「イモ光將軍」、正代結希さん(砂中学校2年)の「小江戸イモマン」、村田あきさん(28歳・志多町)の「こあかちゃん」、福島理恵子さん(18歳・砂新田)の「いいも君」、福岡みなみさん(星野学園中学3年)の「鐘つきっ子いもどん」が選ばれました。

たくさんのお応募、ありがとうございました。
問い合わせ…観光課観光企画担当・TEL内線2732



シンボルキャラクター採用作品
「紅ちゃん」

あなたのメッセージを
小江戸の夜空に上げる
花火に託してみませんか

第16回 小江戸川越花火大会

7月23日(土)、安比奈親水公園で開催
(悪天候の場合は24日(日))

記念メッセージ花火を募集!

16回目を迎える小江戸川越花火大会。ごとしも、皆さんの記念メッセージ花火を募集します。結婚・出産・誕生日・入学・卒業・就職・還暦・新築などのお祝いを、メッセージにしてみませんか。あなたの花火で小江戸川越の夜空を彩りましょう。

申込期間…5月23日(月)まで
対象…個人(親睦会等は可。会社等については広告協賛をご利用ください)
定員…先着20人
花火の種類と経費…4号玉段打ち(5発)または7号玉、20,000円(税込)
申し込み…必要事項を記入した申込書に経費を添えて、平日の午前9時~午後5時に小江戸川越観光推進協議会(本庁舎5階・観光課内)
*申込書の用紙は観光課にあります。
取り扱い要領…花火大会プログラムに提供者名を記載し、大会当日、会場で打ち上げ前にメッセージを読み上げます。メッセージは、提供者名を含めて40文字以内(例:〇〇〇〇ちゃん、お誕生日おめでとう 提供△△△△)
問い合わせ…観光課観光推進担当・TEL内線2733

~ひとくち情報~ ミニ・インフォメーション ~ひとくち情報~

- 歯ッピーフェスティバル2005 総合保健センター健康増進係・TEL229-4121
6月5日(日)、正午~午後3時、総合保健センター。駐車場が狭いので、公共交通機関等をご利用ください。
- 平成17年度第2回川越市社会福祉審議会地域福祉専門分科会 保健福祉推進課保健福祉推進担当・TEL内線2512
5月20日(金)、午後1時30分~、第5委員会室(本庁舎7階)。傍聴は当日直接会場。
- 5月16日(月)~22日(日)の「春季行政相談強調週間」では、行政相談員が国の仕事への要望や意見を受け付けます。市民活動支援課市民相談係・TEL224-5022

Hello! ハロ姉妹都市

オータン市

国際交流課国際交流担当・TEL224・8811内線2142

音楽は世界の共通語

オータン市(フランス・ブルゴーニュ州)で友好ジョイントコンサートを行った、川越少年少女合唱団代表の小林さやかさん(17歳・古谷本郷の報告を紹介します。

三月末から四月の初めにかけて八日間、関係者総勢八十人でフランスを訪れ、オータン市など三か所で友好親善ジョイントコンサートを開催しました。

オータン市では、市立劇場で演奏会が行われました。会場正面玄関には畳一畳半大のポスターがはられ、私たちが歓迎してくれました。演奏に先立ち、ルベロツト市長さん主催によるパーティーを開いていただきました。団員ひとりひとりに記念品が渡され、市長さんから「このコンサートを通して、オータン市、川越市がより一層、友情を感じることができました。」



舞台上で歌っている合唱団の皆さん

人権教育シリーズ 日本の人権、世界の人権 ⑪

生涯学習課人権教育係 TEL224・8811内線2846

このシリーズは、昨年二月に中央大学教授・横田洋三さんを招いて行った、人権問題講演会の要旨を生涯学習課でまとめたものです。

私の教えている中央大学にも韓国、それから中国から留学生がたくさん来ています。エレベーターにいつしよに乗って、最初のうちは日本語で話しているの日本人学生だと思っていました。そのうちに途中からもう一人乗ってき、その人が韓国人の人だと、韓国語で話します。そして初めて、あつ、この人、韓国からの留学生だ、とわかるのです。そのくらいに見た目にはわからないのです。つまり違いが人の間の不信感や対立を生んでいるわけではないということです。

中華料理も食べるでしょうし、それから韓国料理の焼肉も食べるでしょう。インドネシア料理もタイ料理もインドカレーも食べます。カレーはほとんど日本の料理といってもよいくらいに日本人はよく食べています。それから、違いが差別を生むというのですが、これもおかしいことです。男の人と女の人の区別がまずありますけれども、これはたとえばお風呂屋さんに行つたときに男性と女性とを分けますが、別にこれについて誰もこれを差別だと言う人はいません。けれども例えばパルトヘイト、住む地域をアフリカ人とヨーロッパ系の人とを分ける、これは差別だということになるわけですね。

どうしてこのような違いが出てくるのかというと、それは分けることによって、その分けられた人が屈辱感を感じたり自由が失われたり、あるいは不快感を持つというときに、これが差別になるのです。だから合理的な説明のつく区別は、差別ではないのです。

(つづく)

暮らし広がる地域の



自治会活動から

気軽にさまざまな利用を!

4月3日に川越ハイツ自治会集会所・老人憩いの家、4月10日に並木西町自治会館・老人憩いの家の落成式が行われました。「より多くの人に、気軽に利用してもらいたいです。防災拠点としての機能も備えています」と川越ハイツ自治会長の松井衆さん(53歳・牛子)。「近くの公園で遊んだあとの憩いの場に、舞台を使つての発表会にとさまざまな利用してほしいですね」と並木自治会長の櫻井晶夫さん(53歳)。



防災拠点にもなっている川越ハイツ自治会集会所



並木に2つ目の自治会館です